

二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業)
公募要領

平成30年5月
一般社団法人環境技術普及促進協会

一般社団法人環境技術普及促進協会（以下「協会」という。）では、環境省から平成30年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業）の交付決定を受け、低炭素な水素の利活用を推進するため、再エネ水素ステーション又は燃料電池産業車両等の導入を行う事業者に対して補助金を交付する事業を実施します。

本補助金の目的及び概要、対象事業、応募方法、留意事項等を本公募要領に記載しておりますので、応募申請される方は、本公募要領をご熟読くださいますようお願いいたします。

なお、補助事業として採択された場合には、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業）交付規程（平成30年5月17日付け環技業（二）第30-051701号）（以下「交付規程」という。）に従って補助事業の手続等を行ってください。

また、採択された際には、政府が推進する地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」について、可能な範囲でご協力いただく可能性があります。

補助金の応募をされる皆様へ

本補助金については、国庫補助金である公的資金を財源としておりますので、社会的にその適正な執行が強く求められており、当然ながら、協会としましては、補助金に係る不正行為に対しては厳正に対処します。

したがって、本補助金に対し応募の申請をされる方におかれましては以下の点につきまして、充分ご認識された上で、応募の申請を行っていただきますようお願いいたします。

- 1 協会に提出する書類には、如何なる理由があってもその内容に虚偽の記述を行わないでください。
- 2 協会から補助金の交付決定を通知する前において発注等を行った経費については、交付規程に定める場合を除き補助金の交付対象とはなりません。
- 3 補助金で取得し、又は効用の増加した財産（取得財産等）を、当該財産の処分制限期間（法定耐用年数）内に処分（補助金の交付目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、又は取壊し（廃棄を含む。））をすることをいう。）しようとするときは、事前に処分内容等について協会の承認を受けなければなりません。なお、協会は、必要に応じて取得財産等の管理状況等について調査することがあります。
- 4 補助事業の適正かつ円滑な実施のため、その実施中又は完了後に必要に応じて現地調査等を実施します。
- 5 補助事業に関し不正行為が認められたときは、当該補助金に係る交付決定の解除を行うとともに、支払い済の補助金のうち解除対象となった額を返還していただくこととなります。
- 6 補助金に係る不正行為に対しては、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）の第29条から第32条において、刑事罰等を科す旨規定されています。
- 7 補助金の応募ができる者は、別紙に示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約できる者であることとします。

公募要領目次

項 目	ページ
I 補助事業の概要	4
1. 補助金の目的と性格	4
2. 定義	5
3. 補助対象となる事業	5
4. 補助事業の選定	10
5. 応募に当たっての留意事項	13
6. 応募の方法	15
7. 問い合わせ先	17
II 補助事業における留意事項等について（必ずお読みください。）	18
1. 基本的な事項について	18
2. 補助金の交付について	18
3. 補助金の経理等について	19
4. その他	20
【添付資料】	
・別表第1	21
・別表第2	23
・別表第3	26
・別表第4	27
【様式等】 （当協会ホームページの「公募情報」からダウンロードいただけます）	
・応募申請書 【様式1】	
・実施計画書 【様式2】	
・経費内訳書 【様式3】	
・暴力団排除に関する誓約事項	
【参考資料】	
・ハード対策事業計算ファイル	
・地球温暖化対策事業効果算定ガイドブック＜補助事業申請者用＞ （平成29年2月環境省地球環境局）	

I 補助事業の概要

1. 補助金の目的と性格

- (1) 本補助金は、再エネ水素ステーション又は燃料電池産業車両等を導入する経費の一部を補助することにより、再生可能エネルギーの導入拡大及び燃料電池自動車の普及促進を図り、もってエネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に資することを目的としています。
- (2) 事業の実施により、エネルギー起源二酸化炭素の排出量が確実に削減されることが重要です。このため、申請においては、二酸化炭素排出削減量について算出過程を含む根拠を明示していただきます。また、事業完了後の一定期間は削減量の実績を報告していただきます。
- (3) 本補助金の執行は、法律及び交付規程等の定めに従い適正に行っていただく必要があります。具体的には、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号。以下「適正化法」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号。以下「適正化法施行令」という。）、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業）交付要綱（平成29年3月24日環水大自発第1703241号。以下「交付要綱」という。）及び再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業実施要領（平成29年3月24日環水大自発第1703242号。以下「実施要領」という。）の規定によるほか、交付規程の定めるところに従い実施していただきます。

万が一、これらの規定が守られず、協会の指示に従わない場合には、交付規程に基づき交付の決定の解除の措置をとることもあります。また、補助事業完了後においても、補助事業の効果が発現していないと判断される場合には、補助金返還などの対応を求めることがありますので、この点について十分ご理解の上で、応募いただきますようお願いいたします。（詳細はp. 13「5. 応募に当たっての留意事項」をご確認ください。）

- ア 補助事業開始は、交付規程に定める場合を除き交付決定日以降となります。
- イ 事業完了後も、事業報告書（二酸化炭素排出削減量の把握等）の提出や適正な財産管理、補助事業で取得した財産である旨の表示などが必要です。
- ウ 補助事業で整備した財産を処分（目的外使用、譲渡等）しようとする場合は、あらかじめ協会に申請し、承認を受ける必要があります。
- エ これらの義務が十分果たされないときは、協会より改善のための指導を行うとともに、事態の重大なものについては交付の決定を解除することもあります。

2. 定義

本公募要領における用語の定義は、以下のとおりです。

- (1) 「燃料電池自動車」とは、燃料電池を搭載し、水素を燃料電池の燃料として用いるものであって、次のいずれかに該当するもののことをいう。
 - ア 自動車登録番号標又は車両番号標の交付を受けた自動車
 - イ 特別区・市町村の条例で付すべき旨を定められている標識を取り付けている小型特殊自動車又は原動機付自転車
 - ウ 構内で使用する産業車両
- (2) 「再エネ」又は「再生可能エネルギー」とは、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマス（動植物に由来する有機物であってエネルギー源として利用することができるもの（原油、石油ガス、可燃性天然ガス及び石炭並びにこれらから製造される製品を除く。）をいう。）、その他原油、石油ガス、可燃性天然ガス及び石炭並びにこれらから製造される製品以外のエネルギー源のうち、電気のエネルギー源として永続的に利用できることが認められるものをいう。
- (3) 「水素ステーション」とは、燃料電池自動車に水素を供給する設備をいう。
- (4) 「再エネ水素ステーション」とは、水又はバイオマスを用いて製造された水素を供給し、かつ当該水素が製造される際に要する電力の全量相当分が再生可能エネルギーで賄われている水素ステーションをいう。
- (5) 「燃料電池産業車両」とは、燃料電池を搭載し、水素を燃料電池の燃料として用いるフォークリフト（以下、「燃料電池フォークリフト」という。）及びバス（以下、「燃料電池バス」という。）をいう。
- (6) 1Nm^3 とは、標準状態（ 0°C 、 1 気圧）に換算した 1m^3 のガス量を表します。
本公募要領における立方メートルとは、 Nm^3 を示します。

3. 補助対象となる事業

本補助金の交付対象は、(1)に適合する(2)の事業とします。

- (1) 対象事業の基本的要件
 - ア 事業を行うための実績・能力・実施体制が構築されていること。
 - イ 提案内容に、事業内容・事業効果・経費内訳・資金計画等が明確な根拠に基づき示されていること。
 - ウ 本事業の補助により導入する設備等について、国からの他の補助金（負担金、利子補給金並びに適正化法第2条第4項第1号に規定する給付金及び同項第2号に掲げる資金を含む。）を受けていないこと。

(2) 対象事業

ア 地域再エネ水素ステーション導入事業

① 対象事業の要件

本事業は、再エネ水素ステーションを導入する事業（水素ステーション一式及びその設置費用）を交付の対象とし、水素ステーションの新設のほか、既設の設備を移設、増設、改造する場合にも交付の対象とします。

ただし、ソーラーパネルや風力発電等の再生可能エネルギーシステムを既に保有し、かつ、電力として活用可能な場合には、再生可能エネルギーシステムを交付の対象としません。

補助事業は原則、以下の要件を全て満たすものであることとします。

- 一 製造した水素をその場で燃料電池自動車に供給するものであること。
- 二 実施要領第3（1）アに該当する自動車への水素の充填については、圧縮水素充填技術基準 J P E C - S 0 0 0 3（S A E - J 2 6 0 1）に準拠していること。ただし、当該基準に準拠していない場合には、水素ステーションの供給者、設置者及び運営者並びに自動車会社の間で協議して合意が得られていること。
- 三 導入箇所については、当該地域において、商用の水素ステーションがあること、商用の水素ステーションの建設計画若しくは構想があること又は水素エネルギー活用のビジョンがあること等、再エネ水素ステーションを導入することで燃料電池自動車の普及に相当程度資する可能性がある地域であること。
- 四 燃料電池自動車を複数台導入し、そのカーシェアリング、貸出等を行う計画を立てることにより、当該自動車を活用することで、近隣の企業、団体、住民等の燃料電池自動車に対する認知度向上を図ること。

② 補助事業者

補助金の応募を申請できる者は、地方公共団体、民間団体及びその他法人とします。

なお、民間団体及びその他法人とは次に掲げるものとします。

- 一 民間企業
- 二 独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人
- 三 一般社団法人・一般財団法人及び公益社団法人・公益財団法人
- 四 法律により直接設立された法人
- 五 その他環境大臣の承認を得て協会が認める者

③ 共同実施

アに規定する補助事業を2者以上の事業者が共同で実施する場合には、共同で申請するものとし、その代表者を補助金の対象者とします。なお、代表者は補助事業を自ら行い、かつ、当該補助事業により財産を取得する場合はその財産を取得する者に限ります。また、この場合において、代表者を代表事業者、それ以外の事業者を共同事業者とします。

さらに、代表事業者は、本事業の応募書類の申請者となるほか、補助事業として採択された場合には、円滑な事業執行と目標達成のために、その事業の推進に係る取りまとめを行うとともに、実施計画書に記載した事業の実施体制に基づき、具体的な事業計画の作成や、事業の円滑な実施のための進行管理を行っていただくこととなります。

④ 補助金交付の対象外

他の法令及び国の予算に基づく補助金等の交付を受けて行われる事業については、交付の対象としません。

⑤ 補助率及び補助上限額

原則として補助対象経費（詳細は「別表第1」参照）に次の補助率を乗じた金額を補助します。

一 水素製造能力が1日あたり30立方メートル未満の再エネ水素ステーション

補助率：3/4

補助上限額：1.2億円

二 水素製造能力が1日あたり30立方メートル未満の再エネ水素ステーション（水素充填圧力が70メガパスカルのもの）及び水素製造能力が1日あたり30立方メートル以上100立方メートル未満の再エネ水素ステーション

補助率：3/4

補助上限額：2億円

三 水素製造能力が1日あたり100立方メートル以上の再エネ水素ステーション

補助率：1/2

補助上限額：2.5億円

⑥ 補助事業期間

事業期間は原則単年度（平成31年2月28日までの期間）とします。

単年度で事業完了が困難である事業については複数年度事業（2年以内（平成32年2月28日までの期間））として申請可能です。ただし、複数年事業とした場合、各年度における本事業の予算措置がなされることを前提とするものであり、複数年度の事業の実施を保証するものではありません（本年度の交付決定は、翌年度以降の交付決定を保証するものではありません。）。

イ 水素ステーション保守点検支援事業

① 対象事業の要件

環境省の地域再エネ水素ステーション導入事業で整備された水素ステーションが対象で、当該施設の保守点検事業を対象とします。

② 補助事業者

補助金の応募を申請できる者は、地方公共団体、民間団体及びその他法人とします。なお、民間団体及びその他法人とは次に掲げるものとします。

一 民間企業

二 独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人

三 一般社団法人・一般財団法人及び公益社団法人・公益財団法人

四 法律により直接設立された法人

五 その他環境大臣の承認を得て協会が認める者

③ 共同実施

イに規定する補助事業を2者以上の事業者が共同で実施する場合には、共同で申請するものとし、その代表者を補助金の対象者とします。なお、代表者は補助事業を自ら行い、かつ、当該補助事業により財産を取得する場合はその財産を取得する者に限ります。また、この場合において、代表者を代表事業者、それ以外の事業者を共同事業者とします。

さらに、代表事業者は、本事業の応募書類の申請者となるほか、補助事業として採択された場合には、円滑な事業執行と目標達成のために、その事業の推進に係る取りまとめを行うとともに、実施計画書に記載した事業の実施体制に基づき、具体的な事業計画の作成や、事業の円滑な実施のための進行管理を行っていただくこととなります。

④ 補助金交付の対象外

他の法令及び国の予算に基づく補助金等の交付を受けて行われる事業については、交付の対象としません。

⑤ 補助率及び補助上限額

原則として補助対象経費（詳細は「別表第1」参照）に次の補助率を乗じた金額を補助します。

補助率：2／3

補助上限額：2百万円

⑥ 補助事業期間

補助事業の実施期間は、交付決定の日から平成31年2月28日までとし、この期間内に完了できる事業とします。

ウ 水素社会実現に向けた産業車両等における燃料電池化促進事業

① 対象事業の要件

本事業は、燃料電池フォークリフト及び燃料電池バスの導入を対象とします。

② 補助事業者

補助金の応募を申請できる者は、地方公共団体、民間団体及びその他法人とします。なお、民間団体及びその他法人とは次に掲げるものとします。

- 一 民間企業
- 二 独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人
- 三 一般社団法人・一般財団法人及び公益社団法人・公益財団法人
- 四 法律により直接設立された法人
- 五 その他環境大臣の承認を得て協会が認める者

③ 共同実施

ウに規定する補助事業を2者以上の事業者が共同で実施する場合には、共同で申請するものとし、その代表者を補助金の対象者とします。なお、代表者は補助事業を自ら行い、かつ、当該補助事業により財産を取得する場合はその財産を取得する者に限ります。また、この場合において、代表者を代表事業者、それ以外の事業者を共同事業者とします。

さらに、代表事業者は、本事業の応募書類の申請者となるほか、補助事業として採択された場合には、円滑な事業執行と目標達成のために、その事業の推進に係る取りまとめを行うとともに、実施計画書に記載した事業の実施体制に基づき、具体的な事業計画の作成や、事業の円滑な実施のための進行管理を行っていただくことになります。

④ 補助金交付の対象外

他の法令及び国の予算に基づく補助金等の交付を受けて行われる事業については、交付の対象としません。

⑤ 補助率及び補助上限額

原則として補助対象経費（詳細は「別表第1」参照）の次の補助率を乗じた金額を補助します。

燃料電池フォークリフトの導入

補助率：1/2（一般的なエンジン車と燃料電池車との差額に対して）

補助上限額：5百万円/台

燃料電池バスの導入

補助率：1/3（本体価格に対して）

補助上限額：35百万円/台

⑥ 補助事業期間

補助事業の実施期間は、交付決定の日から平成31年2月28日までとし、この期間内に完了できる事業とします。

4. 補助事業の選定

(1) 補助事業の選定

- ・一般公募を行い、選定します。
- ・応募者より提出された応募書類について、一次審査（要件等審査）及び二次審査（審査基準に基づく審査）を行い、予算の範囲内で補助事業を選定します。
- ・審査は、原則として提出された順に行います。
- ・応募内容に係る審査は、以下により行います。

ア 一次審査(要件等の確認審査)

応募書類をもとに、補助要件を満たしていることを確認するため確認審査します。要件を満たしていない申請については、以降の審査の対象外とし不採択となります。

また、応募書類の不備や、提出書類に記載された内容について明確な根拠に基づき記載されていない場合、説明に必要な資料が添付されていない場合にも、以降の審査の対象外とし不採択となる場合があります。

イ 二次審査(審査基準による審査)

アの一次審査を通過した応募申請は、審査委員会で承認された審査基準に基づき、審査を行います。

ウ 審査項目（案）

下記審査項目等は検討中の原案です。今後、審査委員会における議論等を踏まえ、審査基準として具体化していくため、修正または変更する可能性があります。確定後、審査項目は、協会ホームページ等に掲載する予定です。

① 地域再エネ水素ステーション導入事業の審査項目（案）

- 一 導入設備
- 二 導入箇所及び地域における燃料電池自動車の普及の可能性
- 三 燃料電池自動車の活用方法
- 四 二酸化炭素排出抑制効果
- 五 事業の実施体制
- 六 設備の維持管理体制
- 七 資金計画
- 八 事業実施スケジュール

② 水素ステーション保守点検支援事業の審査項目（案）

- 一 設備状況
- 二 保守点検計画
- 三 資金計画
- 四 保守計画の根拠

③ 水素社会実現に向けた産業車両等における燃料電池化促進事業の審査項目（案）

- 一 事業の新規性・先端性
- 二 事業の実現性・継続性
- 三 今後の事業の活用・展開の見通し
- 四 二酸化炭素削減効果
- 五 事業の実施体制
- 六 設備の保守計画
- 七 資金計画
- 八 事業実施スケジュール

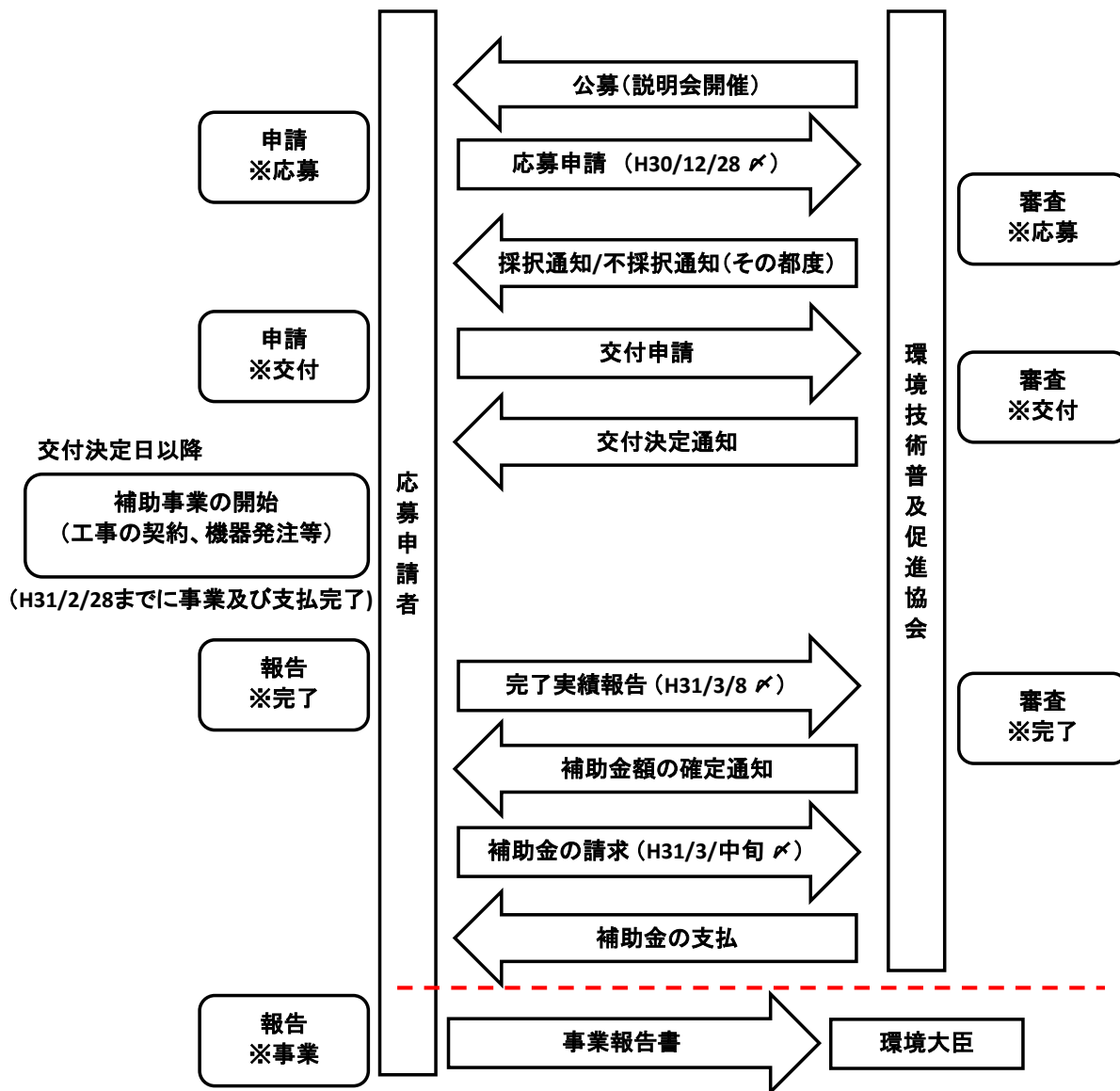
エ 補助事業の選定と応募者に対する通知

審査の結果を踏まえ、予算の範囲内において補助事業を選定し、選定された応募者に対して採択通知を行います。

なお、採択結果については、応募者名・事業概要等を協会ホームページ等に掲載する予定です。

(2) 応募書類の提出後のスケジュールについて

応募書類提出後のスケジュールの概略は以下のとおりです。



注) 応募申請期限

- ① 地域再エネ水素ステーション導入事業
平成30年12月28日(金)正午
- ② 水素ステーション保守点検支援事業
平成30年12月28日(金)正午
- ③ 水素社会実現に向けた産業車両等における燃料電池化促進事業
平成30年12月28日(金)正午

※ なお、上記期間にかかわらず、補助金予算の上限額まで達することが判明した場合は、それ以降の公募受付を終了させていただくことがあります。

5. 応募に当たっての留意事項

(1) 虚偽の応募に対する措置

応募書類に虚偽の内容を記載した場合、事実と異なる内容を記載した場合は、事業の不採択、採択の取消、交付決定の解除、補助金の返還等の措置をとることがあります。

(2) 複数年度にわたる事業

補助金の交付は、単年度ごとに行うこととなるため、年度ごとに完了実績報告書の提出が必要となります。

また、地域再エネ水素ステーション導入事業における次年度以降の補助事業は、政府において次年度に所要の予算措置が講じられた場合にのみ行いうるものであり、次年度の見込額に比較して大幅な予算額の変更や予算内容の変更等が生じたときは、事業内容の変更等を求めることがあります。

(3) 補助事業対象経費

ア 地域再エネ水素ステーション導入事業

事業を行うために必要な工事費（本工事費、付帯工事費、機械器具費、測量及試験費）、設備費、業務費及び事務費であって別表第2に掲げる経費並びにその他必要な経費で協会が承認した経費となります。

イ 水素ステーション保守点検支援事業

事業を行うために必要な人件費及び業務費（賃金、社会保険料、諸謝金、光熱水費、会議費、共済費、旅費、印刷製本費、通信運搬費、手数料、委託料、使用料及び賃借料及び消耗品費）であって別表第2に掲げる経費並びにその他必要な経費で協会が承認した経費となります。

ウ 水素社会実現に向けた産業車両等における燃料電池化促進事業

燃料電池フォークリフト及び燃料電池バスを導入するために必要な工事費（本工事費、付帯工事費、機械器具費、測量及試験費）、設備費、業務費及び事務費であって別表第2に掲げる経費並びにその他必要な経費で協会が承認した経費となります。

(4) 維持管理

補助事業により導入した設備等は、補助事業の完了後においても、善良な管理者の注意をもって管理し、補助金の交付の目的に従って、その効率的運用を図る必要があります。

(5) 二酸化炭素排出削減量の把握

補助事業の完了後、二酸化炭素排出削減量の把握を行う必要があります。

(6) 事業報告書の作成及び提出

- ア 補助事業者は、補助事業が完了した日からその年度末までの期間及びその後の3年間の期間について、毎年度末において再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業に係る二酸化炭素排出削減効果等について事業報告書を環境大臣に提出していただきます。
- イ 地域再エネ水素ステーション導入事業者は、補助事業の完了後、以下の報告書の提出を行う必要があります。
- ① 補助事業が完了した日からその年度末までの期間及びその後の3年間の期間について、毎年度末において燃料電池自動車の普及目標及び導入実績台数、それに対する現状評価に関する事業報告書を環境大臣に提出していただきます。
 - ② 地域再エネ水素ステーション導入事業に係る補助金交付を受けた事業者のうち、電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法第9条、又は、電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法第6条において認定を受けている設備において、バイオマスを燃焼することで発電した電力により、水素製造に要する電力の全量相当を賄うとした間接補助事業者に対して、補助金の交付を受けた年度から減価償却資産の耐用年数に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）で定める期間を経過する年度までの期間、毎年度末においてバイオマス発電状況等に係る報告書を環境大臣に提出していただきます。
- ウ 前記①及び②の報告をした場合、その証拠となる書類を当該報告に係る年度の終了後3年間保存していただきます。

(7) 補助事業完了後の検証

補助事業の完了日の属する年度以降、必要に応じて、導入した設備と設備の稼働状況、管理状況及び事業の成果（二酸化炭素排出削減量）を確認するため、環境省から委託を受けた団体による現地調査を行う場合があります。

(8) 翌年度における補助事業の開始

補助事業実施者は、複数年度計画補助事業のうち翌年度における補助事業について、翌年度の交付決定日の前日までの間において当該補助事業を開始する必要がある場合は、別途示す様式の申請書を協会に提出して承認を受けてください。

なお、申請をいただいたからといって必ずしも承認を確約するものではなく、また予算の範囲内での交付となるため、翌年度以降の補助額に変更があり得ますので、予めご了承ください。

(9) 事業内容の発表等について

本事業の実施内容・成果については、広く国民へ情報提供していくことが重要であることに鑑み、国内外を問わず積極的に公表するように努めるとともに、実施内容・成果の公表・活用・社会実装等に当たっては、環境省「再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業」によるものである旨を広く一般にとってわかりやすい形で必ず明示するようする必要があります。

6. 応募の方法

(1) 応募書類

応募に当たり提出が必要となる書類は、次のとおりです。

応募書類のうち、次のア～エ及びクについては、必ず協会のホームページからダウンロードして作成するようお願いします。

ア 応募申請書【様式1】

イ 実施計画書【様式2】

- ① 再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業（地域再エネ水素ステーション導入事業）
- ② 再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業（水素ステーション保守点検支援事業）
- ③ 再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業（水素社会実現に向けた産業車両等における燃料電池化促進事業）

※ 実施計画書における各欄は必ず記載し、漏れのないようにしてください。

※ ① 地域再エネ水素ステーション導入事業については、3. 補助対象となる事業（2）ア①に掲げた「対象事業の要件」を確認できる書類（事業所見取り図、広域地図、設備仕様、機器仕様、図面）等を参考資料として必ず添付してください。

ウ 経費内訳【様式3】

- ① 再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業（地域再エネ水素ステーション導入事業）
- ② 再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業（水素ステーション保守点検支援事業）
- ③ 再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業（水素社会実現に向けた産業車両等における燃料電池化促進事業）

※ 金額の根拠がわかる書類（見積書）等を参考資料として必ず添付してください。

エ ハード対策事業計算ファイル【別添1】（③水素社会実現に向けた産業車両等における燃料電池化促進事業のみ）

導入予定の設備ごと（産業車両等）に作成してください。作成方法は「地球温暖化対策事業効果算定ガイドブック（平成29年2月環境省地球環境局）」を参照してください。

また、ハード対策事業計算ファイルと別に設備ごとの【CO2削減量】、【CO2削減率】及び【費用対効果】を整理した表も作成してください。

オ 企業パンフレット等申請者の業務概要がわかる資料及び定款又は寄附行為

法律に基づく設立の認可を受けている者等は、設立の認可を受け、又は設立の認可が適当であるとされた法人の定款又は寄附行為の案を提出してください。ただし、この案が作成されていない場合には、提出を要しません。

カ 経理状況説明書（直近2決算期の貸借対照表及び損益計算書）

応募の申請時に、法人の設立から1会計年度を経過していない場合には、申請年度の事業計画及び収支予算を、法人の設立から1会計年度を経過し、かつ、2会計年度を経過していない場合には、直近の1決算期に関する貸借対照表及び損益計算書を提出すること。

また、法律に基づく設立の認可を受けている者等は、設立の認可を受け、又は設立の認可

が適当であるとされた法人の申請年度の事業計画及び収支予算の案を提出すること。

ただし、この案が作成されていない場合には、提出を要しません。また、地方公共団体が申請する場合は、申請年度の予算書を添付すること。

- キ 申請者が法律に基づく事業者である場合は、それを証する書類の写し
- ク 暴力団排除に関する誓約事項【別紙】
- ケ その他参考資料

(2) 応募書類の提出方法

1の書類（紙媒体）と電子媒体を提出期限までに、持参又は郵送により協会へ提出してください（電子メールによる提出は受け付けません。）。

なお、応募書類は、封書に入れ、宛名面に、応募事業者名及び3.補助対象となる事業（1）対象事業の応募書類である旨を朱書きで明記してください。

（例：「再エネ水素を活用した社会インフラの低炭素化促進事業（地域再エネ水素ステーション導入事業）応募書類」在中等）

(3) 提出先

一般社団法人環境技術普及促進協会 業務部 業務第2グループ宛て
〒534-0024
大阪市都島区東野田町2 - 5 - 10 京橋プラザビル6階

(4) 提出部数

(1)の書類（紙）を2部（正1部、副1部）、当該書類の電子データを保存した電子媒体（CD-RもしくはDVD-R）1部を提出してください（電子媒体には、応募事業者名を必ず記載してください）。

電子媒体に保存する電子データは、(1)応募書類のオからエについてはExcel形式で必ず保存してください。

ただし、(1)のオからケについては、書類（紙媒体）のみ1部の提出で結構です。

なお、提出された書類については返却しませんので、必ず写しを控えておいてください。

(5) 公募期間

- ① 地域再エネ水素ステーション導入事業
平成30年5月17日（木）～ 平成30年12月28日（金）正午
- ② 水素ステーション保守点検支援事業
平成30年5月17日（木）～ 平成30年12月28日（金）正午
- ③ 水素社会実現に向けた産業車両等における燃料電池化促進事業
平成30年5月17日（木）～ 平成30年12月28日（金）正午

※ なお、上記期間にかかわらず、補助金予算の上限額まで達することが判明した場合は、それ以降の公募受付を終了させていただくことがあります。

7. 問い合わせ先

公募全般に対する問い合わせは、次のとおりです。

ただし、問い合わせは、原則電子メールを利用し、メール件名に、以下の例のように法人名及び応募予定の事業名を記入してください。

<メール件名記入例>

【株式会社〇〇〇】地域再エネ水素ステーション導入事業、水素ステーション保守点検支援事業又は水素社会実現に向けた産業車両等における燃料電池化促進事業について問い合わせ

<問い合わせ先>

一般社団法人環境技術普及促進協会 業務部 業務第二グループ

TEL：06-6353-2304

FAX：06-6353-2305

担当 業務部 業務第二グループ 久門、菊池、津崎、岩本、吉田

問い合わせメールアドレス：suiso30@eta.or.jp

<問い合わせ期間>

① 地域再エネ水素ステーション導入事業

平成30年5月17日（木）～平成30年12月28日（金）正午

② 水素ステーション保守点検支援事業

平成30年5月17日（木）～平成30年12月28日（金）正午

③ 水素社会実現に向けた産業車両等における燃料電池化促進事業

平成30年5月17日（木）～平成30年12月28日（金）正午

※ なお、上記期間にかかわらず、公募受付を終了した時点で、それ以降の問い合わせを終了させていただきます。

II 補助事業における留意事項等について

1. 基本的な事項について

本補助金の交付については、予算の範囲内で交付するものとし、適正化法、適正化法施行令、交付要綱及び実施要領の規定によるほか、交付規程の定めるところによることとします。

万が一、これら規定が守られない場合には、事業の中止、補助金返還などの措置がとられることがありますので、制度について十分ご理解いただいた後、応募してください。

2. 補助金の交付について

(1) 交付申請

公募により選定された事業者には、補助金の交付申請書を提出していただきます（申請手続等は交付規程を参照願います。）。その際、補助金の対象となる費用は、原則として、平成31年2月28日までに完了する事業で、かつ当該期間までに支払いが完了するもの（補助事業者に対して、補助事業に要した経費の請求がなされた場合を含む。この場合は、完了実績報告書に請求書を添付することで可とし、補助事業者は精算払請求時までには領収書を協会に提出することとする。）となります。

(2) 交付決定

協会は、提出された交付申請書の内容について以下の事項等に留意しつつ審査を行い、補助金の交付が適当と認められたものについて交付の決定を行います。

- ・ 申請に係る補助事業の全体計画（資金調達計画、工事計画等）が整っており、準備が確実に進められていること。
- ・ 補助対象経費には、国からの他の補助金（負担金、利子補給金並びに適正化法第2条第4項第1号に掲げる給付金及び同項第2号に規定する資金を含む。）の対象経費を含まないこと。
- ・ 補助対象経費以外の経費を含まないこと。

(3) 事業の開始

補助事業者は、協会からの交付決定を受けた後に、事業開始することとなります。

補助事業者が他の事業者等と委託等の契約を締結するにあたり注意していただきたい主な点（原則）は、次のとおりです。

- ・ 契約・発注日は、協会の交付決定日以降であること。
- ・ 補助事業の遂行上著しく困難又は不相当である場合を除き、競争原理が働くような手続きによって相手先を決定すること。
- ・ 当該年度に行われた委託等に対して、平成31年2月28日（木）までに対価の支払い及び精算が行われること（補助事業者に対して、完了実績報告書の提出時に補助事業に要した経費の請求がなされた場合を含む。この場合は、完了実績報告書に請求書を添付することで可とし、補助事業者は精算払請求時までには領収書を協会に提出することとする。）。

(4) その他

補助対象経費の詳細は、別表第1～3の内容となります。また、上記の他、必要な事項は交付規程に定めますので、これを参照してください。

3. 補助金の経理等について

(1) 補助金の経理等について

補助事業の経費については、収支簿及びその証拠書類を備え、他の経理と明確に区分して経理し、常にその収支状況を明らかにしておく必要があります。

これらの帳簿及び証拠書類は、補助事業の完了の日の属する年度の終了後5年間、いつでも閲覧に供せるよう保存しておく必要があります。

(2) 完了実績報告及び書類審査等

当該年度の補助事業が完了した場合は、その完了後30日以内又は当該年度3月8日（金）のいずれか早い日までに補助金の完了実績報告書を協会宛て提出していただきます。

協会は、補助事業者から完了実績報告書が提出されたときは、書類審査及び必要に応じて現地調査等を行い、事業の成果が交付決定の内容に適合すると認めたときは、交付すべき補助金の額を決定し、補助事業者に交付額の確定通知をします。

なお補助事業において、補助対象経費の中に補助事業者の自社製品の調達又は関係会社からの調達分（工事費を含む。）がある場合、補助対象事業の実績額の中に補助事業者の利益等相当分が含まれることは、調達先の選定方法如何に関わらず、補助金交付の目的上ふさわしくないと考えられます。このため、自社調達によってなされた設計、工事、物品購入等については、原価計算により利益相当分を排除した額（製造原価）を補助対象経費の実績額とします。

(3) 補助金の支払い

補助事業者は、協会から交付額の確定通知を受けた後、精算払請求書を提出していただきます。

(4) 取得財産の管理について

補助事業の実施により取得し、又は効用の増加した財産（取得財産等）については、取得財産等管理台帳を整備し、その管理状況を明らかにしておくとともに、取得財産等を処分（補助金の交付の目的（交付申請書の実施計画書及び完了実績報告書の実施報告書に記載された補助事業の目的及び内容）に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け又は担保に供し、又は取壊し（廃棄を含む。）することをいう。）しようとするときは、あらかじめ協会の承認を受ける必要があります。

その際、場合によっては補助金の返還が必要になることがあります。なお、取得財産等には、環境省による補助事業である旨を明示しなければなりません。

(5) その他

上記の他、必要な事項は交付規程に定めますので、これを参照してください。

4. その他

- (1) 本補助金は、法人税法第42条第1項及び所得税法第42条第1項の「国庫補助金等」に該当するため、補助事業者が法人の場合、国庫補助金等で取得した固定資産等の圧縮額の損金算入の規定（法人税法第42条）の適用を、また、個人の場合は、国庫補助金等の総収入金額不算入の規定（所得税法第42条）の適用を受けることができます。

ただし、これらの規定が適用されるのは、当該補助金のうち固定資産の取得又は改良に充てるために交付された部分の金額に限られますので、別表第2の「区分」欄における事務費については、これらの規定が適用されません。

なお、これらの規定の適用を受けるに当たっては、一定の手続きが必要となりますので、手続きについてご不明な点があるときは、所轄の税務署等にご相談ください。

- (2) 応募申請書に記載された情報は、補助事業の管理運営及び補助事業の検証評価のために使用し、それ以外の目的に使用することはありません。

- (3) 交付規程第4条第2項ただし書による交付額の算定により交付の申請がなされたものについては、補助金に係る消費税等仕入控除税額について、補助金の額の確定又は消費税及び地方消費税の申告後において精算減額又は返還を行うこととする旨の条件を付して交付の決定を行うものとします。

補助事業完了後に、消費税及び地方消費税の申告により補助金に係る消費税等仕入控除税額が確定し、精算減額又は返還の必要性が発生した場合のみ、様式第9による消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書により、速やかに協会に報告して下さい。

- (4) 補助事業者は、交付規程第8条第13号で定める期間を経過するまでの間、補助事業により取得した温室効果ガス排出削減効果についてJ-クレジットとして認証を受け、かつ当該J-クレジットを移転又は無効化してはならない。

別表第1

1. 補助事業	2. 補助事業対象経費	3. 基準額	4. 交付額の算定方法
1 地域再エネ水素ステーション導入事業	事業を行うために必要な工事費（本工事費、付帯工事費、機械器具費、測量及試験費）、設備費、業務費及び事務費であって別表第2に掲げる経費並びにその他必要な経費で協会が承認した経費	協会が必要と認めた額	<p>ア 総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額を算出する。</p> <p>イ 第2欄に掲げる補助対象経費と第3欄に掲げる基準額とを比較して少ない方の額を選定する。</p> <p>ウ アにより算出された額とイで選定された額とを比較して少ない方の額に、別表第4第1欄の区分に応じた同表第2欄における補助率を乗じて得た額を交付額とする。ただし、算出された額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。また、算出された額が同表第3欄の金額を超える場合は、当該金額とする。</p>
2 水素ステーション保守点検支援事業	事業を行うために必要な人件費及び業務費（賃金、社会保険料、諸謝金、光熱水費、会議費、共済費、旅費、印刷製本費、通信運搬費、手数料、委託料、使用料及賃借料及び消耗品費）であって別表第2に掲げる経費並びにその他必要な経費で協会が承認した経費	協会が必要と認めた額	<p>ア 総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額を算出する。</p> <p>イ 第2欄に掲げる補助対象経費と第3欄に掲げる基準額とを比較して少ない方の額を選定する。</p> <p>ウ アにより算出された額とイで選定された額とを比較して少ない方の額に、三分の二を乗じて得た額を交付額とする。ただし、算出された額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。また、算出された額が別表第4第3欄の金額を超える場合は、当該金額とする。</p>

<p>3 水素社会実現に向けた産業車両等における燃料電池化促進事業</p>	<p>燃料電池フォークリフトを導入するために必要な工事費（本工事費、付帯工事費、機械器具費、測量及試験費）、設備費、業務費及び事務費であって別表第2に掲げる経費並びにその他必要な経費で協会が承認した経費</p>	<p>協会が必要と認められた額</p>	<p>ア 総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額を算出する。 イ 第2欄に掲げる補助対象経費と第3欄に掲げる基準額とを比較して少ない方の額を選定する。 ウ アにより算出された額とイで選定された額とを比較して少ない方の額と一般的なエンジン車との差額に、別表第4第1欄の区分に応じた同表第2欄における補助率を乗じて得た額を交付額とする。ただし、算出された額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。また、一型式毎に算出された額が1台あたり別表第4第3欄の金額を超える場合は、当該金額とする。</p>
	<p>燃料電池バスを導入するために必要な工事費（本工事費、付帯工事費、機械器具費、測量及試験費）、設備費、業務費及び事務費であって別表第2に掲げる経費並びにその他必要な経費で協会が承認した経費</p>		<p>ア 総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額を算出する。 イ 第2欄に掲げる補助対象経費と第3欄に掲げる基準額とを比較して少ない方の額を選定する。 ウ アにより算出された額とイで選定された額とを比較して少ない方の額に、三分の一を乗じて得た額を交付額とする。ただし、算出された額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。また、算出された額が1台あたり別表第4第3欄の金額を超える場合は、当該金額とする。</p>

別表第2

1 区分	2 費目	3 細分	4 内 容
工事費	本工事費	(直接工事費)	
		材料費	事業を行うために直接必要な材料の購入費をいい、これに要する運搬費、保管料を含むものとする。この材料単価は、建設物価(建設物価調査会編)、積算資料(経済調査会編)等を参考のうえ、事業の実施の時期、地域の実態及び他事業との関連を考慮して事業実施可能な単価とし、根拠となる資料を添付すること。
		労務費	本工事に直接必要な労務者に対する賃金等の人件費をいう。この労務単価は、毎年度農林水産、国土交通の2省が協議して決定した「公共工事設計労務単価表」を準用し、事業の実施の時期、地域の実態及び他事業との関連を考慮して事業実施可能な単価とし、根拠となる資料を添付すること。
		直接経費	次の費用をいう。 ①水道、光熱、電力料(事業を行うために必要な電力電灯使用料及び用水使用料) ②機械経費(事業を行うために必要な機械の使用に要する経費(材料費、労務費を除く。)) ③特許権使用料(契約に基づき使用する特許の使用料及び派出する技術者等に要する費用) ④委託料、負担金(事業を行うために必要な業務委託等に要する経費)
		(間接工事費)	
		共通仮設費	次の費用をいう。 ①事業を行うために直接必要な機械器具等の運搬、移動に要する費用 ②準備、後片付け整地等に要する費用 ③機械の設置撤去及び仮道布設現道補修等に要する費用 ④技術管理に要する費用 ⑤交通の管理、安全施設に要する費用
		現場管理費	請負業者が事業を行うために直接必要な現場経費であって、労務管理費、水道光熱費、消耗品

		一般管理費	<p>費、通信交通費その他に要する費用をいい、類似の事業を参考に決定する。</p> <p>請負業者が事業を行うために直接必要な諸給与、法定福利費、修繕維持費、事務用品費、通信交通費をいい、類似の事業を参考に決定する。</p> <p>本工事費に付随する直接必要な工事に要する必要最小限度の範囲で、経費の算定方法は本工事費に準じて算定すること。</p> <p>事業を行うために直接必要な建築用、小運搬用その他工事用機械器具の購入、借料、運搬、据付け、撤去、修繕及び製作に要する経費をいう。</p> <p>事業を行うために直接必要な調査、測量、基本設計、実施設計、工事監理及び試験に要する経費をいう。また、補助事業者が直接、調査、測量、基本設計、実施設計、工事監理及び試験を行う場合においてこれに要する材料費、労務費、労務者保険料等の費用をいい、請負又は委託により調査、測量、基本設計、実施設計、工事監理及び試験を施工する場合においては請負費又は委託料の費用をいう。</p> <p>事業を行うために直接必要な設備及び機器の購入並びに購入物の運搬、調整、据付け等に要する費用をいう。</p> <p>事業を行うために直接必要な機器、設備又はシステム等に係る調査、設計、製作、試験及び検証に要する経費をいう。また、補助事業者が直接、調査、設計、製作、試験及び検証を行う場合においてこれに要する材料費、人件費、水道光熱費、消耗品費、通信交通費その他に要する費用をいい、請負又は委託により調査、設計、製作、試験及び検証を行う場合においては請負費又は委託料の費用をいう。</p> <p>事業を行うために直接必要な事務に要する共済費、賃金、旅費、需用費、役務費、委託料、使</p>
	付帯工事費		
	機械器具費		
	測量及試験費		
設備費	設備費		
業務費	業務費		
事務費	事務費		

用材料及賃借料、消耗品費及び備品購入費をいい、
内容については別表第3に定めるものとする。

事務費は、工事費、設備費及び業務費の金額に
対して、次の表の区分毎に定められた率を乗じて
得られた額の範囲内とする。

号	区 分	率
1	5,000万円以下の金額に対して	6.5%
2	5,000万円を超え1億円以下の金額に対して	5.5%
3	1億円を超える金額に対して	4.5%

別表第3

1 区分	2 費目	3 細目	4 細 分	5 内 容
事務費	事務費	共済費	社会保険料	この費目から支弁される事務手続のために必要な労務者に対する共済組合（社会保険料）負担金と事業主負担保険料をいい、使途目的、人数、単価及び金額がわかる資料を添付すること。
		賃金		この費目から支弁される事務手続のために必要な労務者に対する給与をいい、雇用目的、内容、人数、単価、日数及び金額がわかる資料を添付すること。
		旅費		この費目から支弁される事務手続のために必要な交通移動に係る経費をいい、目的、人数、単価、回数及び金額がわかる資料を添付すること。
		需用費	印刷製本費	この費目から支弁される事務手続のために必要な設計用紙等印刷、写真焼付及び図面焼増等に係る経費をいう。
		役務費	通信運搬費	この費目から支弁される事務手続のために必要な郵便料等通信費をいう。
		委託料		この費目から支弁される事務手続のために必要な業務の一部を外注する場合に発生する特殊な技能又は資格を必要とする業務に要する経費をいう。
		使用料及 賃借料		この費目から支弁される事務手続のために必要な会議に係る会場使用料（借料）をいい、目的、回数及び金額がわかる資料を添付すること。
		消耗品費 備品購入 費		この費目から支弁される事務手続のために必要な事務用品類、参考図書、現場用作業衣等雑具類の購入のために必要な経費をいい、使途目的、品目、単価、数量及び金額がわかる資料を添付すること。

別表第4

1. 導入設備等区分	2. 補助率	3. 補助上限額
1 水素製造能力が1日あたり30立方メートル未満の再エネ水素ステーション	3/4	1. 2億円 (水素充填圧力が70メガパスカルのものについては2億円)
2 水素製造能力が1日あたり30立方メートル以上100立方メートル未満の再エネ水素ステーション	3/4	2. 0億円
3 水素製造能力が1日あたり100立方メートル以上の再エネ水素ステーション	1/2	2. 5億円
4 水素ステーション保守点検支援	2/3	200万円
5 燃料電池フォークリフト	1/2	500万円/台
6 燃料電池バス	1/3	3,500万円/台